

(6) 北 陸



北陸地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

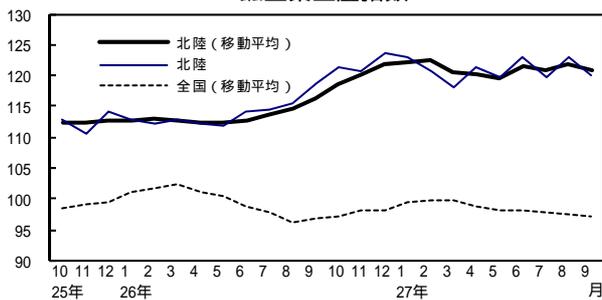
	前回(平成27年8月)	今回(平成27年11月)	
鉱工業生産	増加の動きに一服感	<u>おおむね横ばい</u>	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は、おおむね横ばいとなっている。

7～9月期には、電子部品・デバイス、電子部品が減少したものの、依然として高水準を維持した。化学は、後発医薬品が堅調に推移したため増加した。はん用・生産用・業務用機械は、金属加工機械及び繊維機械が海外向けに減少した。繊維は、化学繊維が前期に定期修理の前倒しが発生したことにより増加した。金属製品は、建設用金属製品が増加した。

鉱工業生産指数



(備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。
2. 全国及び北陸の太線は後方3か月移動平均。

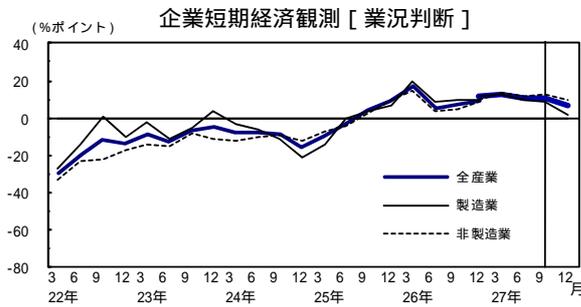
域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4～6 月期	7～9 月期	7月	8月	9月
電子部品・デバイス	20.8	2.8	0.9	6.2	6.6	2.5
化学	13.5	3.7	0.4	1.3	5.0	5.0
はん用・生産用・業務用機械	12.7	9.0	2.8	2.7	2.5	18.9
繊維	8.4	3.5	2.5	4.5	3.5	3.0
金属製品	6.0	0.2	1.4	0.2	3.0	4.3
鉱工業	100.0	0.7	0.4	2.8	2.7	2.3

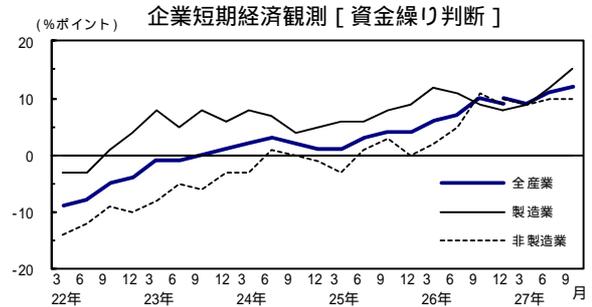
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 7～9月期、9月は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は、「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

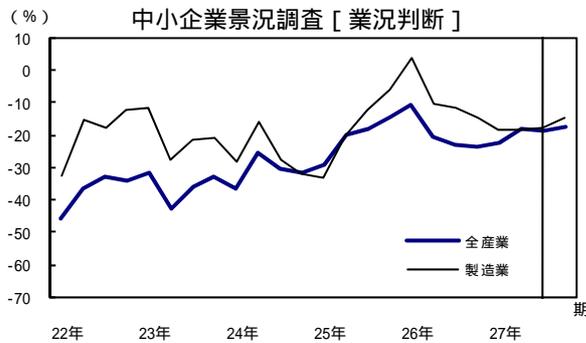
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。27年12月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。

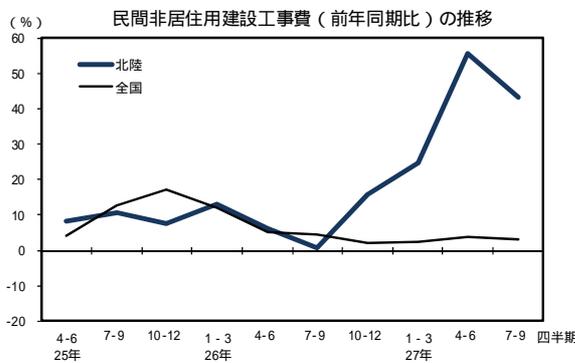


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。27年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「前年と比較して特に中国向けの輸出の出荷が減少しており、荷動きが減少している(輸送業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は、大幅に増加している。



企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	26年度実績	27年度計画
全産業	44.0	51.9(1.8)
製造業	32.9	52.8(3.5)
非製造業	56.9	51.0(0.1)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は、持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7月は前月比0.7%減、8月は同2.3%増、9月は同0.3%減となった。

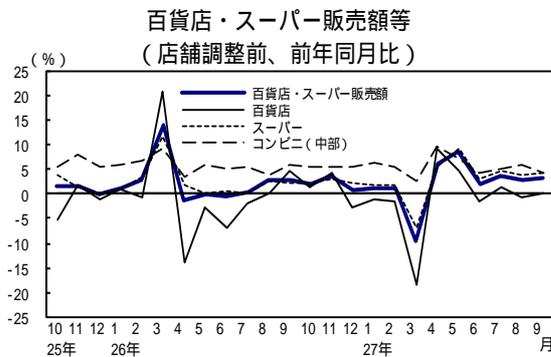
百貨店・スーパー販売額

百貨店は、7月は、衣料品及び飲食料品では、一部地域において大型商業施設がオープンした影響がみられたものの、高額品等が引き続き好調だったことから、前年を上回った。8月は、高額品は好調な動きが続いていたものの、大型商業施設がオープンした影響がみられたことから、前年を下回った。9月は、気温が低めに推移し秋物商材に動きがみられたことや、プレミアム付商品券効果がみられたものの、大型商業施設がオープンした影響が続いていることから、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (10月) [家計動向関連 (現状)]

北陸地域の家計動向関連DIは、47.4となり前月より3.4ポイント低下した。

「値上がりによって、高単価商品の動きが鈍くなっている。安い物でそれを補うだけの数字を取れておらず、売上が上がってこないのが現状である (一般小売店 [精肉])」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

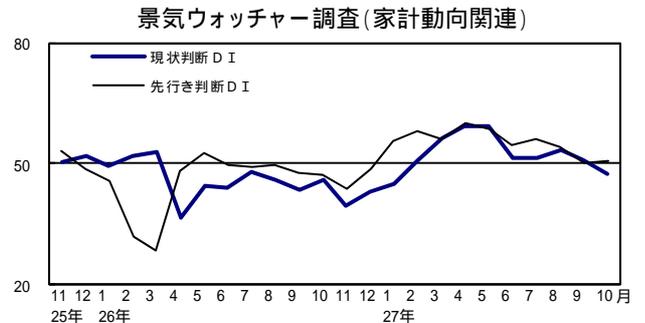
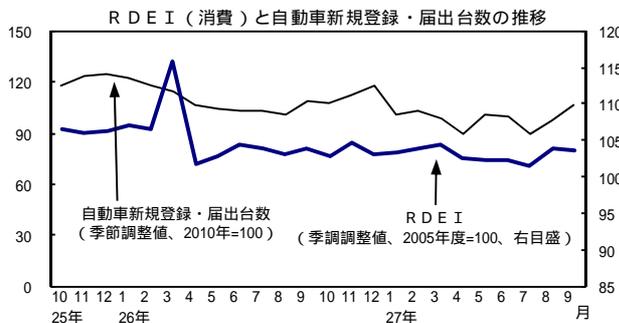


	27年7-9月	27年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.6	0.7	2.3	0.3
百貨店・スーパー(*2)	3.4	3.8	3.0	3.4
百貨店(*2)	0.3	1.3	0.5	0.0
スーパー(*2)	4.2	4.5	3.9	4.3
コンビニ(*2)	5.2	5.1	6.1	4.4
乗用車(*3)	7.0	13.4	1.7	4.3
(季節調整値)(*3)	0.8	10.9	9.2	8.9

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)、コンビニは中部

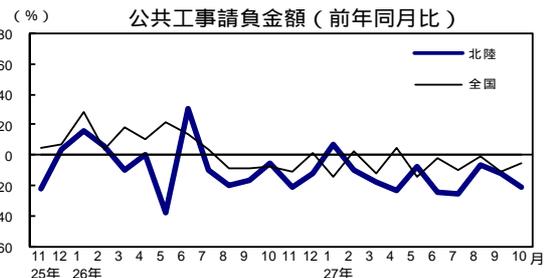
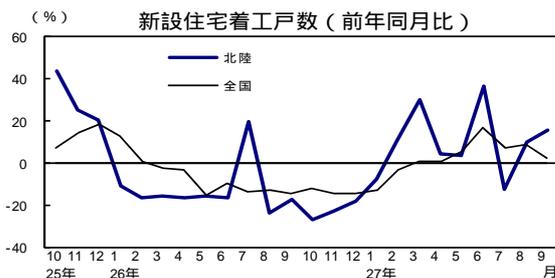
3. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は、大幅に増加している。

分譲が前年を下回ったものの、持家、貸家が上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は、27年度累計で見ると前年度を下回っている。

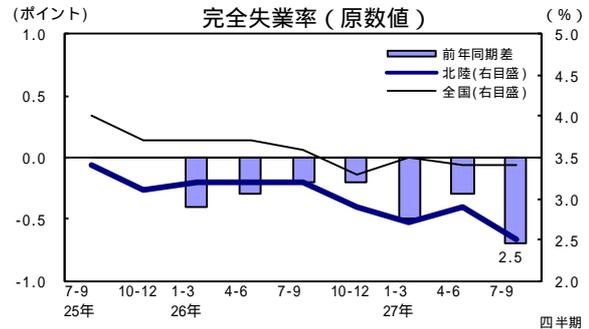
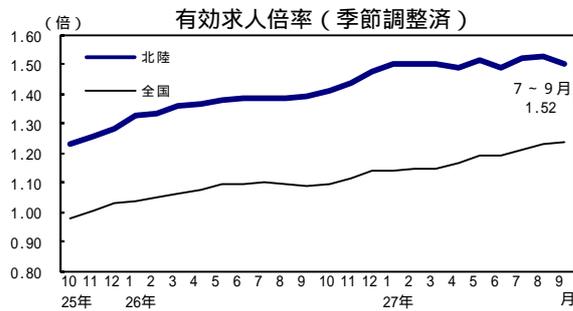


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は、着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(10月)[雇用関連(現状)]

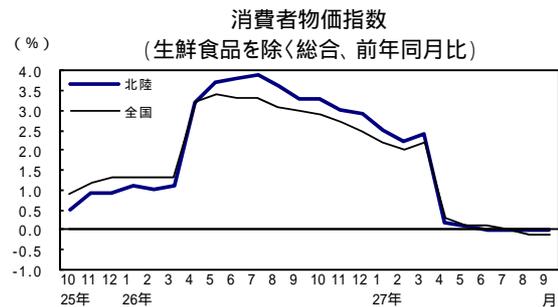
「大手企業の求人は終了したが、中小企業の製造業やIT企業を中心に引き続き問い合わせや追加求人が来ている(学校[大学])」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は大幅に減少、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は、前年比の上昇幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	26年10-12月	27年1-3月	4-6月	7-9月	27年10月
倒産件数 (前年比)	51 26.1	50 15.3	59 29.8	37 33.9	16 20.0
負債総額 (前年比)	90 2.1	99 27.8	797 290.4	58 31.3	19 30.8



景気ウォッチャー調査(10月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・北陸新幹線開業効果により景気は良くみえるが、人手不足により時間給アップが進んでいる。売上高は維持できるが、時給相場の上昇により残る利益が悪化し始めている。下がった利益分をどうやってカバーするのか見通しが立たない状況である(一般レストラン)

<先行き>

・小売店や飲食店の人手不足から、パート、アルバイトの求人時給が高まっている。そのため、既存人員の待遇も改善しなければならない。このことが人件費増となり、損益を圧迫するだろう(コンビニ)

景気ウォッチャー調査
(合計: 家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

